

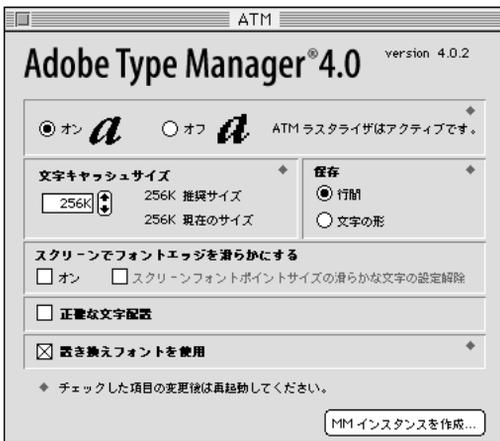
## ATM Jコントロールパネルの使用法

ATM Jコントロールパネルには、ATM Jプログラムのオン・オフを切り替えたり、フォントキャッシュサイズを変更したり、欧文フォントのマルチプルマスターインスタンスを作成したり、各種アプリケーションの使用時に文字の形や行間がどのように現れるかを定めるためのオプションが入っています。

ATM Jコントロールパネル内でオプションを変更した後、その変更を有効にするには、Macintoshを再起動する必要があります。

ATM Jコントロールパネルを開くには：

アップル/コントロールパネルを選び、表示されるコントロールパネルウィンドウ内でATMアイコンをダブルクリックします。



ATM Jのオン・オフを切り替えるには：

ATM Jコントロールパネルを開き、オン・オフの各ボタンを使って任意の設定にした後、Macintoshを再起動します。

ATM Jがオンのとき、マウスボタンを押さえたままMacintoshを再起動すると、ATM Jを一時的にオフにできます。このように起動すると、起動段階で表示されるATM Jのアイコンには×印が付き、ATM Jプログラムが読み込まれていないことがわかります。ATM Jコントロールパネル内でオンが選択されている限り、コンピュータを再起動すると、元のオンの状態に戻ります。

システムからATM Jプログラムを削除するには：

ATM Jプログラムをシステムフォルダからデスクトップ上までドラッグして外に出し、Macintoshを再起動します。その後、ATM Jプログラムをゴミ箱にドラッグして削除します。また、システムフォルダ内の初期設定フォルダからATM Preferencesフォルダも削除します。

注意：ATM Jインストーラプログラムの削除オプションを使うと、ATMコントロールパネルを削除することができます。このオプションでは、システムフォルダ内の初期設定フォルダ内にあるATM Preferencesも自動的に削除されます。

## フォントキャッシュサイズの変更

フォントキャッシュのサイズとは、ATMプログラムにより作成されたフォントデータの保管に使用する、システムメモリの量を定めるものです。初期設定では、256Kになっています。

注意：マルチプルマスター書体には、フォントキャッシュを少なくとも256Kに設定しておく必要があります。

使用しているアプリケーションで、スクロールやページ変更、フォント表示などの処理に異常に長い時間がかかる場合は、フォントキャッシュが低すぎるのが考えられます。パフォーマンスを向上させるには、書類内で使用している各フォントにつきフォントキャッシュサイズを32K上げてから、Macintoshを再起動してみてください。

## 行間および文字の形の制御

ATM Jで使用するフォントによっては、書類内の改行や改ページに影響が出たり、書類の表示やプリント時に、文字が圧縮されたり、文字の一部が切り取られてしまうことがあります。ATM Jコントロールパネル内にある、保存オプション、スクリーンでフォントエッジを滑らかにするオプション、正確な文字配置オプションを使うと、フォントの表示やプリント方法を調節することができます。

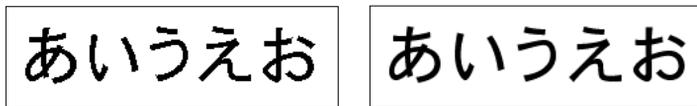
保存オプション：このオプションは、アクセント付きの大文字やそのほかの発音記号を表示したりプリントする際のATM Jの属性を指定することができます。

- 書類内で、同じ改行位置および改ページ位置を保つには、行間オプションを選びます。何種類かのフォントを使っている場合、このオプションにより欧文フォントのディセンダが少々切り取られたり、アクセント付きの大文字やそのほかの発音記号が画面表示で多少つぶれてしまう場合があります。ただし、これは画面表示だけの問題で、プリントには影響しません。初期設定では、行間オプションが選択されています。
- 画面上で文字の一部が切り取られたり、形がつぶれることを避けるには、文字の形オプションを選択します。このオプションでは、文字の外枠のサイズを大きくすることにより、各文字が完全な形でプリントされるようにします。反面、このオプションを使うと、書類の行間に影響することがあり、画面上では文字の一部が切り取られたまま残る場合があります。
- 改行および改ページを保持したまま、しかも画面上での文字のつぶれや切り取りを避けるには、ATM Jコントロールパネル内で文字の形オプションをオンにしておき、アプリケーション内で行間を手動調節する方法があります(ただし、使用するアプリケーションが行間調節をサポートしている場合に限られます)。詳細については、そのアプリケーションに付属のマニュアルをご覧ください。

スクリーンでフォントエッジを滑らかにする：ビデオディスプレイ特有の文字のギザギザを解消し、画面上のType 1フォントが滑らかに表示されます。ATMではアンチエイリアス(カラーをブレンドすることにより画面上のType 1フォントのエッジを滑らかにする)を使用してエッジを滑らかにします。

カラー表示されたテキストでは、アンチエイリアスはモニタのカラー設定が約32,000(16-bit)または約1,670万(24-bit)に設定されている時に有効になります。カラーが256色(8-bit)に設定されている場合、アンチエイリアスが有効になるのは白黒のテキストのみです。

この機能を使うと、コンピュータによっては画面上に表示されるテキストの処理速度が遅くなります。フォントキャッシュサイズを増やすと、処理速度は向上します。



スクリーンでフォントエッジを滑らかにするがオフ

スクリーンでフォントエッジを滑らかにするがオン

正確な文字配置：ATM Jでは文字をサブピクセルのレベルに配置するため、特に小さなポイントサイズでは文字間隔はより正確に表示されます。この機能を使うと、コンピュータによっては画面上に表示されるテキストの処理速度が遅くなります。アプリケーションによっては、サブピクセル配置機能がサポートされていないことがあります。

## 欧文マルチプルマスター書体の使用

欧文のマルチプルマスター書体は、ポストスクリプトType 1書体をサポートする任意のアプリケーション内で、ほかのアドビ書体と同様に使用することができます。マルチプルマスター書体は、ポストスクリプト言語の能力を活かし、各書体からほとんど無制限の数のカスタムフォントを生成することができます。

### 主要フォントについて

マルチプルマスター書体に付属の既成の主要フォントのセットは、書体をインストールすると各アプリケーション内のフォントメニューに現れます。各パッケージの主要フォントのセレクションは、書体のデザイナーや製造元により定義されるもので、これにより完全な書体ファミリーを構成する有益なフォントのパレットが供給されることとなります。

### マルチプルマスター書体から生成されるフォントの命名方法

マルチプルマスター書体から生成されるフォントには、「<ファミリー名>MM\_<フォント識別子>」という法則で名前が付けられます。ファミリー名は書体名で、MM\_はこれがマルチプルマスター書体であることを示し、フォント識別子は特定のフォントインスタンスを識別する数や文字になります。インスタンスは、主要フォントであることも、あるいは書体内にあるユーザにより生成されたフォントのこともあります。

フォント識別子は、書体内の各デザイン座標の英数字が組み合わせられたものになります。書体に1つのデザイン座標が使われている場合、単一の英数字が含まれることになり、2つのデザイン座標が使われている場合は2種類というように、その数は増えていきます。

数字は、デザイン座標に沿ったフォント位置を示し、個々のマルチプルマスター書体でウェイトと幅は相対的なものになります。文字は、主要フォントの場合はフォントのスタイル(標準や太字、コンデンスなど)を指し、ユーザにより生成されたフォントの場合はデザイン座標(ウェイト、幅、見かけ上のサイズ)になります。

	2軸字体	3軸字体
FamilyMM	MyriadMM	MinionMM
ウェイト	400 RG	367 RG
幅	600 NO	585 NO
見かけ上の サイズ		11 OP

マルチプルマスター書体パッケージに含まれている主要フォントと、自由に生成したカスタムフォントは、大文字と小文字の違いで見分けることができます。主要フォントには大文字の省略形(例: ExtraLightのXL) 自由に生成したフォントには小文字の省略形(例: weightのwt、widthのwd)が使われています。

注意: Macintoshのフォントメニューに表示可能な長さには、31文字という制限があります。フォント名がこの最大文字数を超えると、最初にまずスペースが取られ、そのあと英数字の文字の部分(たとえば、RG、NO、wt、wdなど)が省略されます。

### マルチプルマスターインスタンスの作成

ATM Jを使って、マルチプルマスター欧文フォントを作成したり、カスタムフォントを生成したり、フォントを選択したり、主要フォントやカスタムフォントを削除したり、主要フォントを回復することができます。

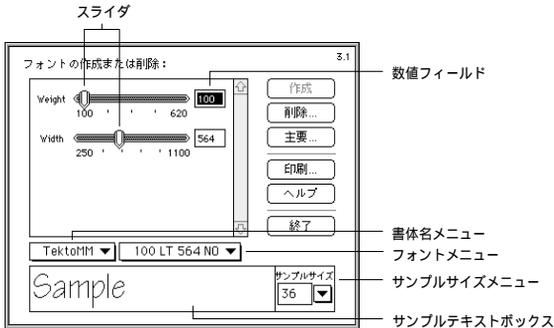
### カスタムフォントの生成

カスタムフォントは、マルチプルマスター書体に組み込まれている各デザイン座標に沿った位置を指定することにより生成します。作成したカスタムフォントの名前は、アプリケーションを起動すると、そのフォントメニュー内に自動的に現れるようになります。

カスタムフォントを生成するには：

1 Adobe Type Manager Jコントロールパネル内の、MMインスタンスを作成をクリックします。

書体の各デザイン座標用のスライダを備えた、フォントの作成または削除ダイアログボックスが現れます。下図では、ウェイト(Weight)および幅(Width)に対する2つのスライダを見ることができます。



3種類のポップアップメニューを使って、フォントを選択したり、そのポイントサイズを調整することができます。

- 書体名ポップアップメニューを使って、マルチプルマスター書体を選択します。
- フォントポップアップメニューを使って、主要あるいはカスタムフォントを選択します。
- サンプルサイズポップアップメニューを使って、サンプルテキストボックス内に表示されるテキストのポイントサイズを調整します。

2 書体名ポップアップメニューから、調節したい書体を選びます。

3 以下のいずれかの方法を使って、生成したいフォントを選択します。

- 調節したいデザイン特性を表すスライダをドラッグするか、スライド数値上の任意の位置をクリックして、その値を調整します。
- 数値を直接入力します。許容範囲外の数値を入力すると、自動的に範囲内の最小あるいは最大値に調節されます。
- 調節したい任意のデザイン座標のスライダあるいは数値フィールドをクリックした後、上下矢印キーを使って数値を指定します。

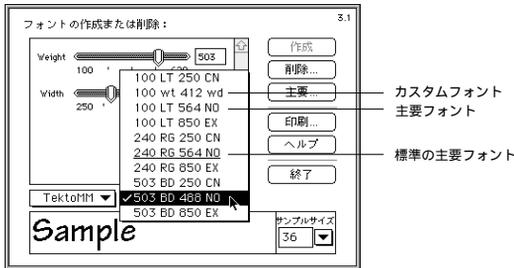
4 必要に応じて、サンプルテキストの内容を編集したり、サイズを変更します。

5 選択されているフォントの見本を実際に印刷して確認するには、印刷をクリックします。Optionキーを押しながら印刷をクリックすると、用紙設定ダイアログボックスを表示させて各種のプリント関連の設定を行うことができます。

6 フォントのカスタマイズが終わり、デザインが完成したら、作成をクリックして新しいフォントを作成します。Command + ピリオド(.)を押すと、作成処理をキャンセルできます。

7 主要あるいはカスタムフォントを選択するには、フォントポップアップメニューを使います。

どの修飾も設定されていない標準の主要フォントには、下線が引かれています。主要フォントは大文字の省略形で、カスタムフォントは小文字の省略形で、それぞれ示されています。詳細については、本章前述の「マルチプルマスター書体から生成されるフォントの命名方法」の節を参照してください。



8 フォントの作成や選択が終わったら、終了をクリックしてフォントの作成または削除ダイアログボックスを閉じ、アプリケーションを再起動します。

### マルチプルマスターフォントの削除

ディスク容量を節約するため、生成したフォントの中で必要なくなったものを削除したい場合があります。これを行うには、フォントの作成または削除ダイアログボックス内の削除ボタンを使います。フォントの削除には、Font/DA Moverを使わないでください。このユーティリティは正確なフォント名を表示しないため、取っておきたいフォントを間違えて削除してしまう可能性があります。

アプリケーションの中には、Regular(下線の引かれている)主要フォントを削除すると、マルチプルマスター書体のプリントが行えなくなるものがあります。常に最高結果を得るには、Regularの主要フォントは削除しないでください。

フォントを削除するには：

- 1 フォントポップアップメニューから、削除したいフォントを選びます。
- 2 削除ボタンをクリックします。選択したフォントの削除を再確認するメッセージが表示されます。
- 3 選択されているフォントだけを削除するには、削除をクリックします。あるいは、追加削除をクリックして、現在インストールされているフォントのリストを表示させ、そこで削除したいすべてのフォントを選択してから、削除をクリックします。

注意：削除を再確認するメッセージを表示することなくフォントを削除するには、フォントの作成または削除ダイアログボックス内の削除ボタンをOptionキーを押しながらクリックした後、インストールされているフォントのリストを表示させて、スクロールリスト内で任意の項目を選択し、削除ボタンをクリックします。

## 主要フォントの回復

マルチプルマスター書体の主要フォントを削除した後、再びATM Jアプリケーション内に取り戻したい場合があります。

主要フォントを回復するには：

- 1 Adobe Type Manager Jコントロールパネルで内のMMインスタンスを作成ボタンをクリックします。
- 2 フォントの作成または削除ダイアログボックス内の主要ボタンをクリックします。

主要フォントのスクロールリストが現れます。まだインストールされている、回復の必要のないフォントの名前は、グレー表示されています。

- 3 回復対象の主要フォント名を選択し、作成をクリックします。